

# 障害者自立支援法へ独自軽減策の実施を

大坪 国広 議員 (共)

答弁 町独自での補助は難しい



**質問** 4月より実施された障害者自立支援法の最大の問題点は、障害者とその家族に大幅な負担増を強い、障害が重く制度利用の多い人ほど負担が大きくなる「応益負担」が導入されたことである。障害者団体をはじめとする国民世論の運動の広がり、東京都と17区5市が利用負担軽減のための独自助成を実施している。町でも課税世帯も対象に負担軽減策と法施行で収入減が見込まれる通所施設にも助成を実施するべき、町長の所見を伺う。

**町長** 利用者の負担軽減のため、これまでも町独自で心身障害者(児)福祉手当、交通費等助成事業などを行うとともに、精神障害者に対する基盤整備を行ってきた。したがって、サービスマン利用にかかる負担軽減への新たな町独自の補助は難しい。

なお、障害者への所得保証は、年金・手当制度の充実が基本であり、町として国や都に対し、一層の充実を求めていく。

**こんな質問もありました**  
個人住宅への耐震診断・補強工事に助成を。  
**町長** 10月までに、助成のあり方を検討したい。



福祉運動会で行われた綱引き競技

# 障害者支援の更なる充実を

小川 龍美 議員 (公)

答弁 非営利団体の取り組みに期待したい



**質問** 本年4月、障害者自立支援法が施行された。支援法では、働く意欲と能力のある障害者の就労支援や、身近なところでサービスが利用できるよう、地域の実情に応じたサービスの充実や規制緩和などがうたわれている。

町では、心身障害者福祉センター「あゆみ」が抱える様々な課題への対応や、精神障害者のための相談・サポート・居場所の機能を持つ「地域生活支援センター」の建設など、さらなる障害者支援にどう取り組むのか。

**町長** 「あゆみ」については、訓練事業や公園清掃等、就労機会を提供してきた。しかし、現在、施設のスペース、利用者の固定化や就職先が見つかからないなどの問題も発生している。そこで、社会福祉協議会では「あゆみのあり方検討会」を設置し検討を進めているが、町としても、早急に協議会



「あゆみ」の作業風景

を設置したい。

また、設置が求められている地域生活支援センターについては、運営を希望する非営利団体もあるので、期待するとともに必要な支援を行いたい。

# 何をどう変える町の教育施策

森 亘 議員 (み)

答弁 教育基本法の改正は時代の要請と認識



**質問** 戦後GHQの主導で制定された教育基本法が約60年を経過してようやく改正されようとしている。今後の改正案では、わが町が教育上必要と判断する諸施策を独自に行うことが可能となる。そこで、町並びに町教育委員会に次の所見を伺う。

**問①** 今回の改正をどのように受け止めているか。

**教育長** 心の教育である道徳心を明文化したこと、生涯学習や家庭教育等の条文を新設したことは、時代の要請と認識している。

**問②** 町で取り組みたいと考える教育施策は何か。

**教育長** 深刻化している児童生徒の学力低下の問題を



地域子ども教室 (武蔵野コミュニティセンター)

最重要課題ととらえ、向上対策に取り組みたい。中長期的には、町民一人一人が生涯にわたって学習できる環境整備が重要と考える。

**問③** 改正案の柱の一つである、国と郷土を愛する心

や態度をどのように醸成するか。

**教育長** 現段階では、総合的な学習の時間などで、瑞穂町のいいところを教えることが郷土愛につながるのではないかと思っている。

# 今後の図書館のあり方について

小野 芳久 議員 (自)

答弁 将来、交通の便の良いところへ図書館を設けたい



**質問** 図書館は昭和48年に開館し、教育と文化の発展に寄与してきた。しかし、当時と違い、今は色々な情報が氾濫し、インターネットの普及、大型古本店の進出、本、活字離れなどの問題があり、今後の図書館のあり方が問われている。そこで次の点について伺う。

**問①** 公立図書館と学校図書館の連携は。

**教育長** ネットワーク化は

されていないが、インターネットを通じて必要な蔵書の検索は可能になっている。

**問②** 高齢者、障害者への図書宅配はできないか。

**教育長** 障害者をお持ちで、図書館まで来られない方にも対応できるようにしていきたい。

**問③** 利用者減の対応策は。

**教育長** 交通の便の良いところへの図書館設置を検討していきたい。



武蔵野コミュニティセンター内の図書室